◆感謝状贈呈［体育会活動の発展にご尽力された体育会会長及び部長に対し、退任にあたりその功績をたたえ感謝の意を表する］

［体育会前会長］
利光　強 様（在任期間:2020年4月1日～2024年3月31日）

［体育会前部長］
小菅　正伸 様（スケート部　在任期間:1998年6月23日～2024年3月31日）
榎本　庸男 様（レスリング部　在任期間:2005年4月1日～2024年3月31日）
渡辺　敏雄 様（洋弓部　在任期間:2013年4月1日～2024年3月31日）

◆辰馬杯［OBOGの中から顕著な働きのあった者に与えられる］

関　友里恵（ヨット部・2017年国際学部卒）

学生時代にオリンピック種目である2人乗りヨットの470級で全日本女子インカレ2連覇を果たし、社会人実業団（YAMAHA）に入社。東京オリンピックを目指したのですが、その途中で不運にもペアが解散するという挫折を経験しました。
東京五輪の夢は消え去り、一度はセーリングから離れましたが、自分の中に「挑戦する気持ち」が残っていることに気付き、再起します。
他のチームよりも遅いスタートというハンデを懸命な努力で挽回し、2023年の世界選手権では銅メダルを獲得し、オリンピック候補のトップに躍り出ました。
残念ながら、最終レースで結果を出せず、代表の座を掴めませんでしたが、挫折を乗り越え、逆境にも諦めずに挑戦し続けた彼女の姿は体育会のモットーであるNoble Stubbornnessを体現するものであり、ヨット部の全OBOGに大きな希望と可能性を与えました。

◆木村杯［現役及び指導者の中から顕著な働きのあった者に与えられる］

増成拓也（庭球部・文学部4年）・増成智也（庭球部・教育学部4年）

昨年の関西リーグにおける貢献と、全国王座決定戦でも3位入賞の立役者であり、特筆すべきは、夏季関西学生テニス選手権大会でダブルス優勝、全日本学生室内テニス大会において、関東の強豪を撃破し、関学勢としては53年ぶりに男子ダブルス優勝の栄冠に輝きました。また、その後、亜細亜大学国際男子テニストーナメント2024において、海外プロ選手に交じってダブルスは1回戦に勝利し、結果、世界ランキングを取得するに至っています。
兵庫県下の公立高校時代は、全国レベルではほぼ無名の選手であったかと思われますが、大学進学後、共に持ち前の負けず嫌いと自身の体力不足の原因の探求にも熱心に取り組み、今ではそれを克服して、精神的にも強さを発揮し現在の活躍に至っております。庭球部のモットーである「Noble Stubbornness」をまさに体現してくれ、部全体を引っ張ってくれている人材です。

◆米田杯［OBOGの中からK.G.A.A.の活動に関して顕著な働きのあった者に与えられる］

横山　瞭一（レスリング部・1967年社会学部卒）

多年にわたりK.G.A.A.幹事としてご活躍され、また８年の間、幹事長・副会長を務め、多大な貢献をされました。
2009年～2017年にわたりK.G.A.A.幹事長・副会長を務められ、その間には「翔ばたけKGスポーツ　ウイングブルー21」の周年事業のもと寄附講座・ホームページの開設並びに地域貢献事業開始等に故渡辺会長と共に幹事長として手腕を発揮されるなど多大な貢献をされました。

◆勇者杯［昭和38年卒業者の推薦］

増成拓也（庭球部・文学部4年）・増成智也（庭球部・教育学部4年）

２人は、庭球部としては、53年ぶりというインカレ優勝の原動力となり、ロビングを活かした戦いで、相手をマイペースに引き込み勝ち進みました。
スピンの効いたサーブにも優れ、兄弟の息の合った戦いぶりが、制覇への道へと繋がりました。

◆躍々会表彰［昭和47年卒業者の推薦］

ハンドボール部

関西学院大学体育会ハンドボール部の創部78年の歴史の中で、1969年の関西制覇後、優勝がない状態が続きましたが、この度、男子部が春季リーグ戦で55年ぶりに関西制覇を成し遂げました。
また、女子部は昨季に引き続き準優勝という好成績を残し、女子部員2名が、ジュニア世界選手権（U-20）とユース世界選手権（U-18）の全日本選手に本年度選抜されました。
これまでの並々ならぬ努力とハンドボールに対する限りない情熱と探求の賜であり、その貢献を称え、2024年度躍々会賞をハンドボール部に授与いたします。

◆会長表彰

志津木　馨（体育会本部・1976年法学部卒）

1976年卒業以来、毎年、学生本部の幹部交代式及びOBOG会に出席され、常に学生のことを気に掛けて頂き、貴重なアドバイスを頂いています。
体育会及び学生本部に掛ける熱い想いは、未だ劣ることなくOBOG会に於いては、鏡の様な存在です。
また、本年より『千刈弦月会』の会長に就任され、多方面に渡って活躍されています。

宮川　善文（庭球部・1971年経済学部卒）

近年の庭球部現役は男女ともに、団体戦、個人戦で関西制覇はもちろん全国でも大活躍の立派な成績を残しております。特に、昨年は、団体で男子部は関西で準優勝し、全国王座決定戦では関西リーグで優勝していた関西大学に勝ち、３位入賞を果たしました。女子は見事関西制覇で王座決定戦へ進み、全国4位に入賞。個人では、春季関西学生テニス選手権で女子ダブルス優勝。全日本学生テニス選手権では男子ダブルス準優勝、全日本学生室内テニス大会では関学勢としては53年ぶりにダブルス優勝。このペアはプロに混じったトーナメントで勝利し世界ランキング取得しています。これら活躍の礎は、宮川氏が長きにわたり、監督、総監督、技術顧問と役職は変わりつつも、遠路はるばる京都の自宅から大学コートへ頻繁に足を運び技術的にも戦術的にも、また精神的な面での指導のたまものであると、現役はもちろんOBOGも異論を唱える者はおりません。

杉中　豊（硬式野球部・1970年法学部卒）

日本高等学校野球連盟の審判員として、夏・春の甲子園大会に32年間出場され、決勝戦での球審も務められました。1999年から2005年の間は審判長の大役も歴任されました。また12年間にわたり選抜大会選考委員も歴任されました。OB会活動でも数々の功績を残され、OB会副会長としても活躍されました。

佐々木　一樹（サッカー部・1974年社会学部卒）

昨年度までの10年間、サッカー部OB会の副会長（東京支部長）として組織の強化・円滑な運営に尽力されるとともに、学生達の人間力醸成にも熱心に助言するなど現役学生を指導。K.G.A.Aでは東京支部の副支部長も務め支部活動に貢献されました。
日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）の元常務理事であり、サッカー界での人脈も広く、部員がJリーグ入団を目指すうえで、佐々木氏の存在は大きく、欠かせません。

竹原　純一（陸上競技部・1974年社会学部卒）

2016年に監督に再任以来、関西インカレ５回、西日本インカレは67年ぶりの総合優勝、関西学生駅伝の初優勝に導く。
オリンピック、世界陸上選手権などで活躍する多田修平選手をはじめ多くの全国レベルで結果を出している選手を輩出した。また全日本大学駅伝、出雲駅伝での健闘もあり陸上競技部の存在感を高めた。月見ヶ丘クラブ（OB・OG会）の活動でも役員として創部100周年記念誌の編集長として携わるなど多大な貢献をしている。

大崎　隆男（ラグビー部・1978年社会学部卒）

現役時代は１年生からレギュラー選手として活躍した。３年生時に関西大学ラグビーAリーグ復帰の中核選手として貢献し、４年生では関西Aリーグのベストフィフティーンに選出された。 1997年～2001年（第一期）及び2009年～2011年（第二期）８年間監督を務めた。 第一期監督時代は2度のBリーグ優勝、第二期監督時代は2009年にチームを関西制覇に導いた。

林　秀和（相撲部・1978年社会学部卒）

現・相撲部OBOG会副会長。インカレ３度の団体全国制覇や５度の学生横綱を輩出、伝統のある相撲部のOBとして長年に亘り、懸命に応援・指導を続け、結果近年では初めて角界に送り出した宇良関は現在も幕内上位で活躍中。

中村　肇（スキー競技部・1961年文学部卒）

2005年から14年間にわたり雪艇会会長を務める。2000年から全関西学生スキー連盟の理事を務め、現在は総務本部長として連盟の運営に大きく貢献している。また80歳を過ぎた現在もスキーをこよなく愛し、現役スキー選手として全日本マスターズ選手権大会などへ出場し、優秀な成績を収めている。